

認知症高齢者グループホーム等 夜間想定訓練マニュアル

「失敗」から学び「気付き」を得る

平成 22 年 10 月

横浜市消防局

横浜市健康福祉局

はじめに

1 訓練の考え方

「失敗」から学び「気付き」を得ることをテーマとして、実際に体験する中から得られた「気付き」を訓練参加者が共有し、施設ごとに最善と考えられる対応策を見つけていくことをねらいとしています。

2 マニュアルの活用方法

職員の少ない夜間において、入所者の安全を確保するためには、地域との連携が重要になります。このマニュアルは、火災発生時にとるべき基本的な対応事項、訓練の検証方法のほか、地域参加による夜間想定訓練の進め方を示しています。各グループホーム等において、地域住民参加による夜間想定訓練を実施する際に活用していただければ幸いです。

3 マニュアルの構成

はじめに
地域住民参加による
夜間想定訓練フロー
P. 1～P. 3

- マニュアルの活用方法等
- 地域交流がある場合のフロー
- 地域交流が無い場合のフロー

ステップ1
出火防止の意識付け
P. 4～P. 7

- 社会福祉施設で発生した主な火災
- 火災事例
- 電話による119番通報要領



ステップ2
夜間想定訓練の実施
P. 8～P.10

- 訓練の基本的な流れ
- 効果的な訓練のために
- 消防用設備を活用する



ステップ3
訓練の振り返り
P.11～P.14

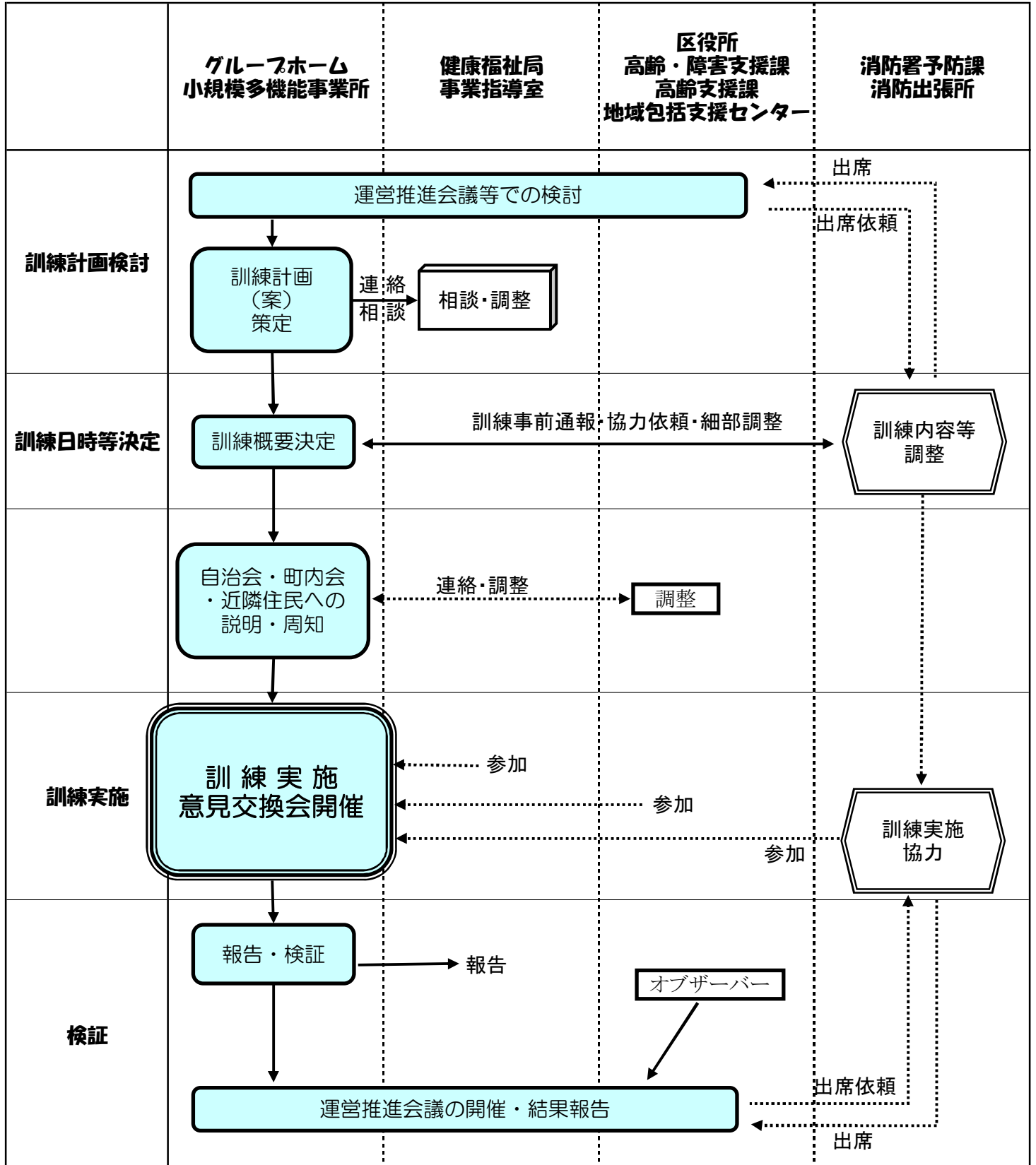
- 訓練の振り返り
- 活動チェックシート
- 避難目標時間を把握する
- 消防署からの提案

- 訓練計画の策定についてのご相談は、健康福祉局高齢健康福祉部事業指導室にご連絡ください。
- 訓練内容についてのご相談は、お近くの消防署予防課、消防出張所にご連絡ください。

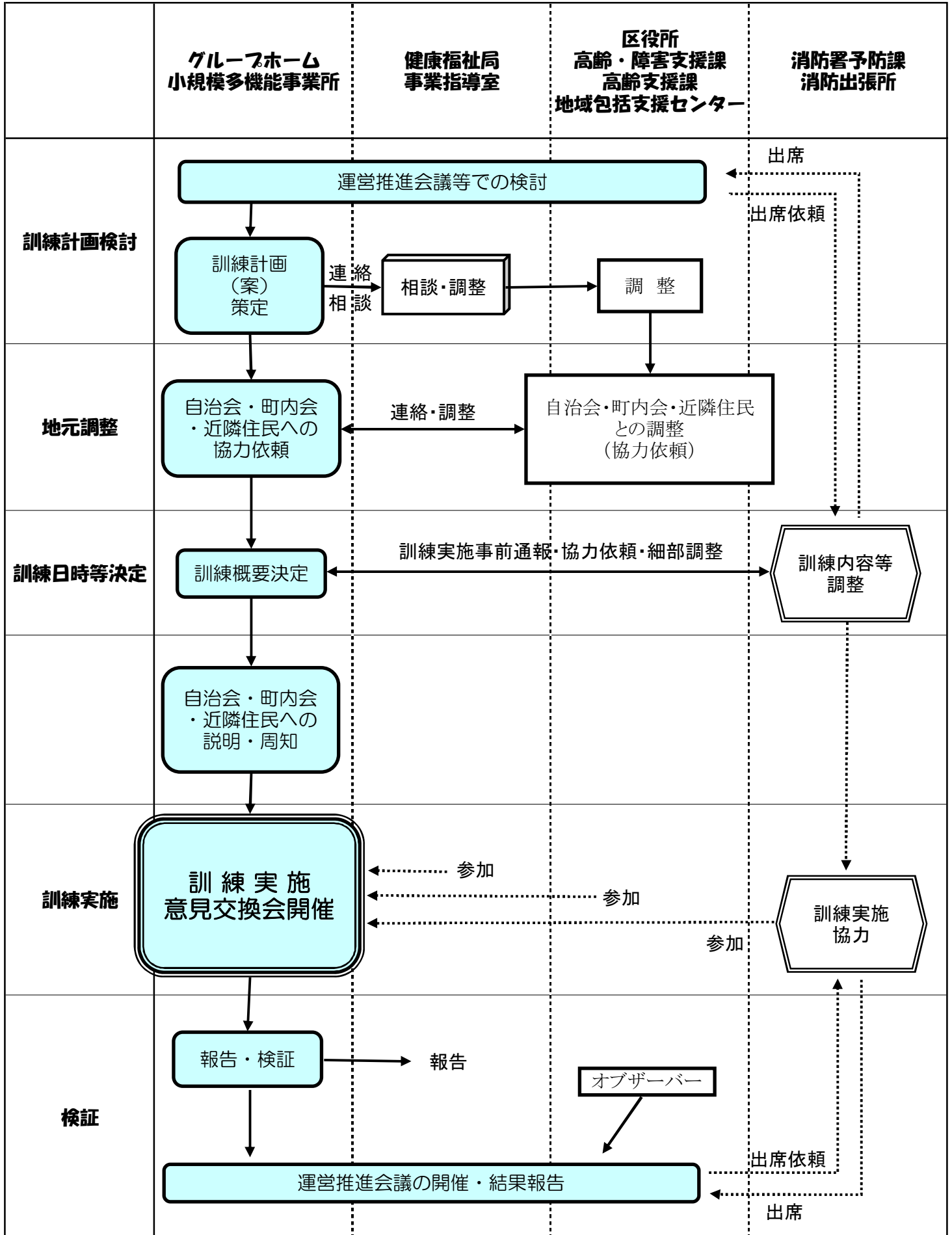
地域住民参加による夜間想定訓練フロー

職員の少ない夜間に火災が発生した場合、最も困難な活動になるのが、入所者の「避難誘導」です。短時間に避難誘導を行うには、マンパワーが必要になります。地域の方々の協力が得られれば、安全面の向上とともに、職員の不安も軽減されます。運営推進会議等で検討し、地域の方々との夜間想定訓練を実施しましょう。

～地域交流がある場合のフロー～



～地域交流が無い場合のフロー～



STEP 1

出火防止の意識付け

最大の対応策は、「出火防止」に努めることです。管理者の方は、訓練の機会をとらえて、下記に掲載した火災事例の問題点等を参考に「出火防止の意識付け」を行ってください。

■ 社会福祉施設で発生した主な火災

火災が夜間に発生している点に着目してください。

発生日	場所及び用途	用途	発生時刻	消防覚知	被害状況
H18.01.08	長崎県大村市	認知症高齢者 グループホーム	02:19頃	02:32	死者7名 負傷者3名
H20.06.02	神奈川県綾瀬市	知的障害者施設	02:28頃	02:33	死者3名 負傷者1名
H20.11.13	宮城県仙台市	老人福祉施設	01:20頃	01:24	負傷者33名
H20.12.26	福島県いわき市	小規模多機能施設	22:04頃	22:09	死者2名 負傷者3名
H21.03.19	群馬県渋川市	有料老人ホーム	22:45頃	22:55	死者10名 負傷者1名
H21.04.07	新潟県糸魚川市	ケアハウス	03:20頃	03:23	死者1名 負傷者3名
H22.03.13	北海道札幌市	認知症高齢者 グループホーム	(調査中)	02:25	死者7名 負傷者2名

■ 火災事例

「119番通報」「避難誘導」の実施状況、「消防用設備」の設置状況に着目してください。

事例1

【火災の概要】

発生場所：長崎県大村市陰平町

建物名称：やすらぎの里さくら館

発生日時：平成18年1月8日2時19分頃

覚知時刻：平成18年1月8日2時32分

建物概要：鉄筋コンクリート造一部木造平屋建て 延べ面積279.1㎡

消防用設備：消火器、誘導灯

被害状況：死者7名、負傷者3名

【火災時の状況】

- 仮眠中の夜勤者がパチパチという音に気付き、共用室に行くとソファ等が燃えていた。
- 消火器による初期消火に失敗し、助けを求めに県道まで走り、通りかかったトラックの運転手から携帯電話を借りて 110 番通報を行った。
- 避難誘導は行われず、駆けつけた警察官が 4 名の救出を行った。
- この火災で、入所者 9 名のうち、7 名が死亡

【問題点】

- ・ 自動火災報知設備が設置されていなかったことから、火災の発見が遅れた。
- ・ 迅速な 119 番通報が行われなかった。
- ・ 夜勤者による避難誘導が行われなかった。

事例2

【火災の概要】

発生場所：群馬県渋川市北橋町

建物名称：静養ホーム「たまゆら」

発生日時：平成 21 年 3 月 19 日 22 時 45 分頃

覚知時刻：平成 21 年 3 月 19 日 22 時 55 分

建物概要：木造平屋建て 本館：104.21 m²、別館 1：192.00 m²、別館 2：99.90 m²

消防用設備：消火器、誘導灯

被害状況：死者 10 名、負傷者 1 名

【火災時の状況】

- 別館 1 から出火、火災が急激に拡大する中、夜勤者は本館の入所者の声で火災に気付いた。
- 夜勤者は、近隣協力者とともに本館の入所者の避難誘導を行い、到着した消防隊が別館 2 の入所者を救助した。
- 夜勤者による 119 番通報、初期消火、別館の避難誘導は行われていない。
- この火災で、入所者 16 名のうち、別館 1 の入所者 7 名、別館 2 の入所者 3 名が死亡

【問題点】

- ・ 施設が 3 棟あったにもかかわらず、夜勤者は 1 名であった。
- ・ 自動火災報知設備が設置されていなかったことから、火災の発見が遅れた。
- ・ 通報及び別館の避難誘導が行われなかった。
- ・ 耐火性に乏しい材料による増改築により、火災の延焼拡大が極めて速かった。
- ・ 屋外への出口が容易に開錠できない形状のもので施錠されていた。

事例3

【火災の概要】

発生場所：北海道札幌市北区屯田4条
建物名称：グループホームみらいとんでん
発生日時：平成22年3月13日（時間は調査中）
覚知時刻：平成22年3月13日2時25分
建物概要：防火造地上2階建て延べ面積248.43㎡
消防用設備：消火器、誘導灯
被害状況：死者7名、負傷者2名

【火災時の状況】

- 出火時、施設内には入所者8名（1階6名、2階2名）と夜勤者1名がいた。
（入所者1名は外出中）
- 夜勤者は、火災発見後、約250メートル離れた交番に駆け込んで警察署に通報を行うとともに携帯電話で119番通報を実施した。
- 到着した消防隊が1階から4名の入所者を救出（3名は死亡、1名は軽症）
- この火災で、入所者9名のうち、7名が死亡

【問題点】

- ・自動火災報知設備が設置されていなかったことから、火災の発見が遅れた。
- ・迅速な119番通報が行われなかった。
- ・夜勤者による避難誘導が行われなかった。
- ・吹き抜け構造となっていたことにより、火災の延焼拡大が極めて速かった。



レベルUP

- 「社会福祉施設で発生した主な火災」を見ると、夜間に火災が発生し、大きな被害が出ていることがわかります。職員が少なくなる夜間は、火災が発生する危険性も大きくなることを認識しましょう。
- 火災を発見した場合は、迅速な119番通報を徹底しましょう。
- 施設内で防災物品の使用状況などを定期的に点検するとともに、夜勤に入る際に火気使用状況等の確認を実践しましょう。
- 火災原因で最も多いのが「放火」です。施設の周囲に燃えやすいものが放置されていないか点検しましょう。

「電話による119番通報要領」

■ 119番通報メモ

■火事ですか？救急ですか？
火事です。(救急です。)
■場所はどこですか？住所を教えてください。
区 町 丁目 番地 号 (町 番地) (グループホーム名・建物名)
■目標になる大きな建物(学校など)や店舗(スーパーマーケット)等を教えてください。
目標は、 _____です。
■どのような状況ですか？(あなたが見た状況を伝えてください。)
火事の場合 何が燃えていますか？ どこから出火していますか？ 逃げ遅れた人や怪我人はいますか？
救急の場合 (急病ですか？怪我ですか？どなたがどういう状態ですか？意識・呼吸はありますか？)
電話番号
あなたのお名前

■火災などの災害がどこで発生したか知りたいとき

消防テレフォンニュース 045-334-0119

■受診できる診療所や病院の情報を知りたいとき

横浜市救急医療情報センター 045-201-1199

STEP2

夜間想定訓練の実施

職員の少ない夜間は、「通報」「初期消火」「避難誘導」などの活動をすべて夜勤者が行うことを想定しなければいけません。管理者の方を中心に、あらかじめ夜間における行動手順を検討しましょう。（訓練の事前準備などについては、次ページを参考にしてください。）

【基本的な流れ】



訓練想定: 夜間に発生した火災に夜勤者が一連の対応をします。
出火場所: 避難の支障となる場所を設定します。
避難目標時間: 13ページを参考に設定します。

【火災発生】

- 近くにある消火器と携帯電話を持って現場に行きます。
- 大きな声で入居者と近隣に火災の発生を知らせます。
- 消火可能と判断した場合は、初期消火を実施します。



【119番通報】

- 火災通報装置が設置されていない場合は、携帯電話または、施設の電話で、119番通報を実施します。（消防職員の立会いがない場合は、自分の施設に模擬通報をしてください。）



【初期消火】

- 消火器で初期消火を行います。（15秒間消火姿勢を維持）
- 消火後は延焼防止、煙の進入を防ぐため出火室の扉を閉鎖します。



【避難誘導】

- 自力避難が可能な入所者に避難の指示をします。
- 出火室に近い入所者から避難誘導を行います。
- 避難経路は、できるだけ出火室から離れるようにします。
- 近隣協力者が到着した場合は、「避難誘導の支援」や「避難してきた入所者の保護」など必要な協力事項を伝えます。



【消防隊への情報提供】

- すべての入所者が避難完了した時点で、管理者が避難状況を聞き取り、訓練終了とします。



○ 火災発生から避難完了までの時間を計測しましょう。

○ 出火場所を知らせずに実施することも効果的です。

○ 消防用設備を有効に活用することを考えましょう!

例えば、火災通報装置を活用すると、119番通報が自動化されるので、「火災の発生」⇒「初期消火」⇒「避難誘導」の手順が可能になります。ご自分の施設に設置されている消防用設備を有効に活用しましょう。



レベルUP

効果的な訓練のために



□事前準備

- 事業所の図面等を用意し、図上での避難計画を立てましょう。
- 建物内外で避難の障害になるもの(家具、段差、物置、花壇など)は図面に記入しておきましょう。
- 出火場所は「避難が困難となる場所」を設定しましょう。
- 認知症状や介護拒否の強い入所者について、有効な避難誘導方法を検討しておきましょう。
- 自力歩行困難な入所者、車椅子使用の入所者を安全に避難誘導する方法を検討しておきましょう。
- 訓練参加者の役割分担を決めておきましょう。

主な役割(例示)

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 統制 | 訓練全体の統制を行います。 |
| <input type="checkbox"/> 夜勤者 | 火災発見から消防到着までの一連の活動を行います。 |
| <input type="checkbox"/> 入所者 | 訓練に参加できない入所者の「代役」を行います。 |
| <input type="checkbox"/> 黒子 | 訓練中の安全確保等を行います。避難誘導等はいりません。 |
| <input type="checkbox"/> 近隣協力者 | 入所者の避難誘導等の支援を行います。 |
| <input type="checkbox"/> その他 | 写真、ビデオ等で訓練中の活動を記録しておく、訓練の振り返りに役立ちます。 |



Point

※役割名の書かれたゼッケン等を着用すると効果的です。

□当日準備

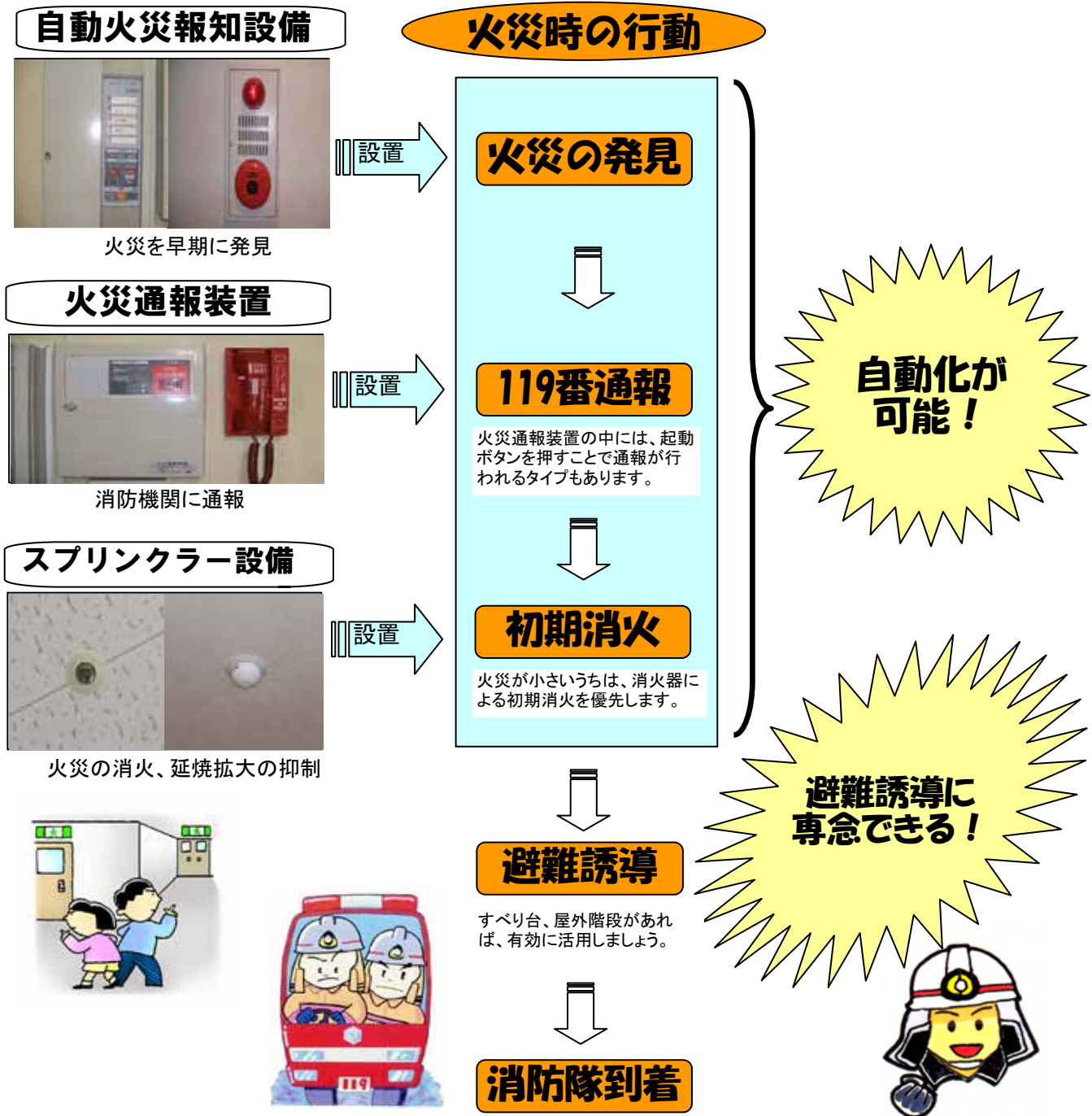
- 訓練前に必ずバイタル測定等を実施し、入所者の体調を確認しましょう。
- 避難後に入所者が待機する場所(椅子、ベンチ等)を用意し、入所者の負担軽減に配慮しましょう。
- 雨天時に入所者が避難する場所(屋根等のある場所)について、検討しておきましょう。
- 夏場は、日除けや水分を用意するなど、入所者が熱中症等にならないよう対策を行いましょう。
- 冬場は、毛布やストーブを用意するなど、入所者への防寒対策を行いましょう。
- 消火器訓練やDVD等による訓練を合わせて行う場合には、場所を確保しておきましょう。

□訓練中の安全管理

- 訓練計画の変更の有無を確認し、変更があった場合は、参加者全員に周知しましょう。
- 訓練開始前に避難経路上の危険要因を確認しましょう。
- 訓練中に危険が予測された場合は、直ちに訓練を中止しましょう。
- 訓練に参加できない入所者については、職員が代役を務めるか、ダミー人形を使用しましょう。
- 消防用設備を使用した場合は、受信機等のスイッチ類を確実に元の状態に復旧しましょう。

「消防用設備を活用する」

夜間に発生した火災に夜勤者だけで対応するには、限界があります。消防用設備は、火災発生時に夜勤者の活動を支援します。ご自分の施設に設置されている消防用設備を有効に活用しましょう。



平成21年4月1日施行の法令改正により、消防法施行令別表第一(6)項口に定める認知症高齢者グループホームなどの施設については、次のように消火設備と警報設備の設置が義務づけられる範囲が拡大されました。

消防用設備等の種類	改正前の設置義務	改正後の設置義務
自動火災報知設備	延べ面積300㎡以上の施設	全ての施設
火災通報装置	延べ面積500㎡以上の施設	全ての施設
スプリンクラー設備※	延べ面積1000㎡以上の施設	延べ面積275㎡以上施設

※延べ面積が1,000㎡未満の施設では水道を利用した「特定施設水道連結型スプリンクラー設備」を設置することができます。

- 訓練で消防用設備を動作させる時は、消防職員、消防用設備事業者立会いのもとで実施しましょう。
- 消防用設備は、6ヶ月ごとに点検し、1年に1回その結果を消防署長に報告することになっています。
- 消防用設備についてわからない点は、訓練に消防職員が立ち会う際や設備点検の際に事業者によく確認しましょう。

STEP3

訓練の振り返り(行動の最適化)

訓練における問題点を解決することで、行動の最適化を図りましょう。施設の構造や入所者のことを理解しているのは、管理者をはじめ、施設で働くみなさんです。みなさんで最善と考えられる対応策を検討することが、行動を最適化する第一歩になります。参加者全員で、意見交換をして情報を共有してください。

□ 訓練を振り返る

【振り返りの方法】

- 活動チェックシートを使った振り返り（12 ページを参考にしてください。）
どこができなかったのか？うまくいった点はどこだったのか？→**気づきを得る！**
- 時間的観点での振り返り（13 ページを参考にしてください。）
避難目標時間を把握しましょう。避難目標時間内に何人が避難できましたか？

□ 問題点は？

【問題点の抽出】

- 「119番通報」や「初期消火」に不安なことはありませんか？
- 「避難誘導」に不安なことはありませんか？
- 消防用設備を有効に活用できましたか？
- 避難目標時間内に避難することはできましたか？
- 「マンパワー」が必要だと感じませんか？



□ 解決策を考える

- 訓練でうまくできなかった点があれば改善しましょう。
⇒「活動チェックシート」を活用して話し合ってみましょう。
- 避難目標時間内に避難を完了するためにはどうしたらいいのかを考えましょう。
⇒避難誘導が一番困難な活動となります。誘導・搬送方法をよく検討しましょう。
- 消防用設備を有効に活用することを考えましょう。
⇒10 ページの「消防用設備を活用する」を参考に設備の効果を理解しましょう。
- 地域の方との連携向上を図りましょう。
⇒短時間での避難誘導にはマンパワーが必要になります。地域の方への連絡方法、協力依頼事項等をよく検討しましょう。



レベル UP

- 定期的な訓練で夜勤者の対応力と地域との連携向上を図りましょう。
- 入所者の避難状況を踏まえ、カンファレンス等を活用して個別の避難方法を検討しましょう。
- 直近に開催される運営推進会議で訓練の結果を報告し、今後の防災体制について検討しましょう。
- 他のグループホームにも積極的に情報提供を行いましょう。

「活動チェックシート」

このシートを活用して訓練の振り返りを行いましょう。うまくいった点は、引き続き訓練に取り入れましょう。うまくできなかった点は、みなさんで検討し、改善策を実際に試してみましょう。

活動内容	活動のポイント	気付いた点
<p>火災の発見</p>	<p>発見から通報まで</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 火災を入居者、近隣に知らせたか <input type="checkbox"/> 消火器を携行したか <input type="checkbox"/> 携帯電話を携行したか 	
<p>↓</p> <p>119番通報</p>	<p>通報から初期消火まで</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 119番通報を行ったか <input type="checkbox"/> 通報内容は適切か 	
<p>↓</p> <p>初期消火</p>	<p>初期消火から避難誘導の開始まで</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 消火器の取り扱いは適切か <input type="checkbox"/> 消火後に延焼防止のため出火室の扉を閉鎖したか 	
<p>↓</p> <p>避難誘導</p>	<p>避難誘導の開始から消防隊到着まで</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 自力避難が可能な入居者へ避難の指示をしたか <input type="checkbox"/> 出火室に近い入居者から誘導したか <input type="checkbox"/> 避難経路の選択は適切か <input type="checkbox"/> 近隣協力者との連携はできたか 	
<p>↓</p> <p>消防隊到着</p>	<p>消防隊への情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 逃げ遅れの情報を正確に伝えたか <input type="checkbox"/> 出火室の位置を正確に伝えたか 	

「火災の発見」から「避難完了」まで実際にかかった時間は？

分 秒

「避難目標時間を把握する」

どれくらいの時間で避難が完了すればいいのか気になるところです。ここでは、建物の構造や壁・天井の仕上げの状況などから、あなたの施設の「避難目標時間」を算定してみましよう。

※全国消防長会「小規模社会福祉施設における避難誘導體制の確保について」(平成21年10月27日全消発第338号)を参考にしています。

設定条件		時間	
火災室の状況	内装制限の状況	不燃材料(例:コンクリートで仕上げたもの)	5分
	※壁(床面から1.2m以下の部分を除く)、天井、室内に面する部分の仕上げ	準不燃材料(例:厚さ9mm以上のせっこうボードで仕上げたもの)	4分
		難燃材料(例:厚さ7mm以上のせっこうボードで仕上げたもの)	3分
		内装制限なし	2分
	火災室で使用する寝具・布張り家具のすべてが防災性能を確保している場合		+1分
	特定施設水道連結型スプリンクラー設備等が設置されている場合		+2分
+		分	

建物全体の状況	火災室からの区画形成	防火区画(例:主要構造部が耐火構造又は準耐火構造)	3分
		不燃区画(例:準不燃材料の壁・天井・戸による区画の形成)	2分
		その他の区画	1分
	床面積×(天井高さ-1.8m)≥200㎡		+1分
	特定施設水道連結型スプリンクラー設備等が設置されている場合		+1分
+		分	

火災室の状況

建物全体の状況

あなたの施設の避難目標時間

+

 ⇒

※自動火災報知設備が設置されていない施設では、算定した時間のうち、1分30秒は夜勤者が火災の覚知に要する時間となります。

設定例

- 火災室の状況⇒内装制限の状況⇒準不燃材料を使用(4分)
⇒寝具・布張り家具の防災性能あり(+1分)
- 建物全体の状況⇒火災室からの区画形成⇒その他の区画(1分)
⇒床面積280㎡×(天井高さ2.6m-1.8m)=224㎡(≥200㎡)⇒(+1分)

火災室の状況 5分 + 建物全体の状況 2分 ⇒ 避難目標時間 7分

※特定施設水道連結型スプリンクラー設備が設置されると

- 火災室の状況⇒設置あり⇒(+2分)
- 建物全体の状況⇒設置あり⇒(+1分)

避難目標時間7分 ⇒ スプリンクラー設備により3分加算 ⇒ 避難目標時間 10分



消防署からの提案

火災発生

- 拡声器(ハンドマイク)等を活用すると近隣にも火災の発生を知らせることができます。
- 停電することが予想されるので、夜勤の際は小型の懐中電灯等を身に付けておきましょう。
- 自動火災報知設備を設置することで、火災の早期発見が可能になります。

119番通報

- あわてて住所を言えない場合があります。あらかじめ通報要領を電話のそばに貼っておきましょう。
- 消火器にも住所などを貼っておくと携帯電話から通報する場合に役に立ちます。
- 火災通報装置を設置することで、119番通報の自動化が可能になります。

初期消火

- 消火器での初期消火は「炎」ではなく、「燃えているもの」をねらって噴射します。
- 噴射した薬剤により、視界が遮られることがありますので、退路を確保しておきます。
- 天井に燃え移っているような場合は、消火をあきらめて避難誘導に移ります。
- 特定施設水道連結型スプリンクラー設備を設置することで、延焼を遅らせることが可能になります。

避難誘導

- 事前に施設や入所者に応じた搬送要領を検討しておきましょう。
- マットレス等を活用した搬送方法が効果的です。
- 屋外階段やすべり台が設置されている施設は、有効に活用します。
- 避難が困難になった場合は、出火室から離れたバルコニーへの一時避難を考えます。
- 避難した入居者が、再び部屋に戻らないようにする工夫も検討しておきましょう。
- 避難誘導には、マンパワーが必要になります。近隣との連携を図りましょう。

消防隊への情報提供

- 消防隊が到着したら、「避難状況」「出火場所」を伝えましょう。
例)「入所者は9人で、7人が避難完了、東側に2人がいます。出火場所は、西側の〇〇室です。」